

経営比較分析表（令和2年度決算）

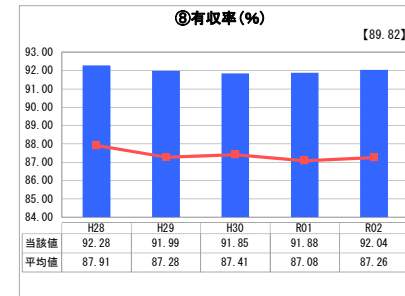
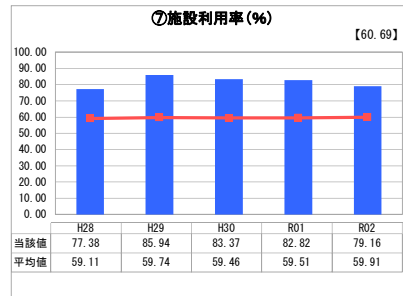
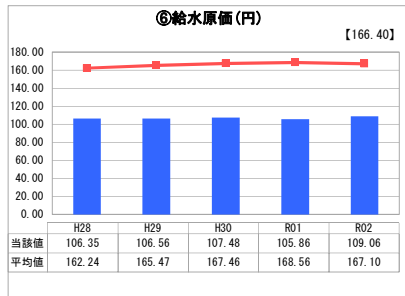
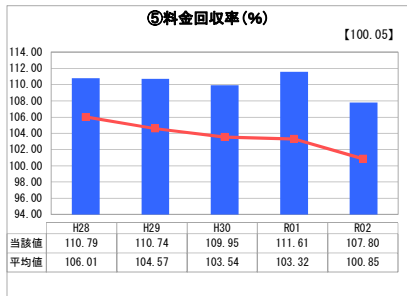
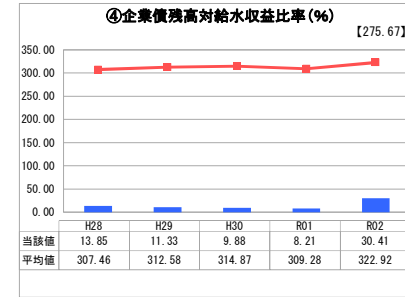
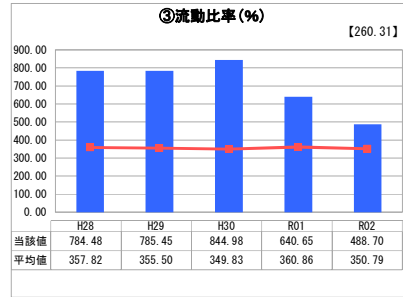
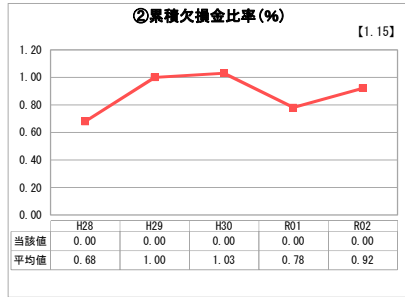
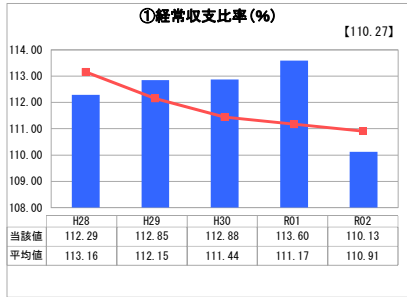
岡山県 玉野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.98	99.30	2,178	

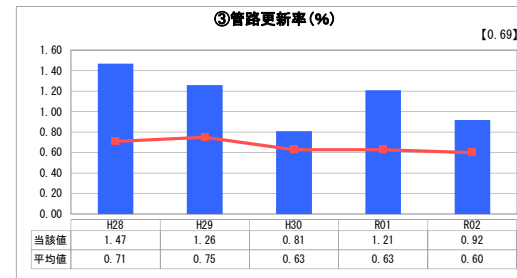
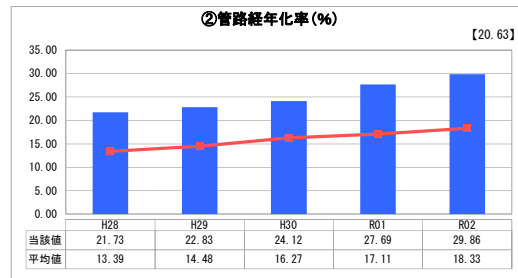
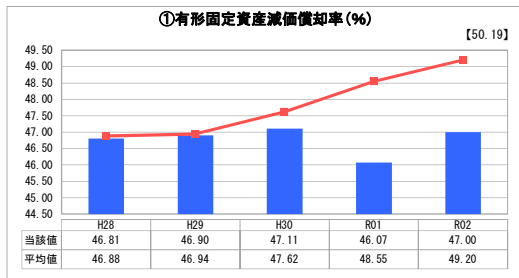
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
57,921	103.58	559.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
57,175	103.43	552.79

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益で費用をどれほど賄えているかを示す指標。経常収支比率が100%を超えており、事業に必要な収益を確保できている。H26から会計制度の改正（長期前受金）により増加している。
- ②累積欠損は生じていない。
- ③100%を超え短期的な債務に対する支払能力は備えている。
- ④配水池の新規築造にかかる起債を行ったため、企業債残高が増加した。
- ⑤100%超の料金回収率により利益剰余金を建設改良費の財源に充てている。H26から会計制度の改正（長期前受金）により増加している。
- ⑥有収水量1m³当たりに係る費用。大規模な浄水場を保有していないため、費用が抑えられていると判断される。
- ⑦一日配水能力に対する一日平均配水量。施設の効率性のみならず、渇水時や水需要の多寡に対応可能な配水能力を維持する必要がある。
- ⑧総配水量に対する総有収水量を示し、比較的高い有収率を維持している。漏水調査や修繕を行い、さらなる向上に努める。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産に対する減価償却累計額の割合を示す。減価償却費の増加額に同程度で施設更新を実施している。
- ②管路の老朽化が進んでいる。実質耐用年数、財源、修繕状況、人口動向などを総合的に勘案し、老朽化の改善を図る。
- ③繰越工事の影響により、年度ごとに事業量の増減があるが、類団平均以上に管路更新を行っている。

全体総括

現状は、事業の収益性、効率性、企業債残高から健全な経営と判断される。

しかしながら、将来的な給水人口の減少による有収水量の減や、老朽化した施設の更新事業による経営健全性の悪化が懸念される。

施設のダウンサイジングや事業費の平準化等を行いつつ、計画的な企業債の活用により、継続的に健全な経営を行っていく予定である。